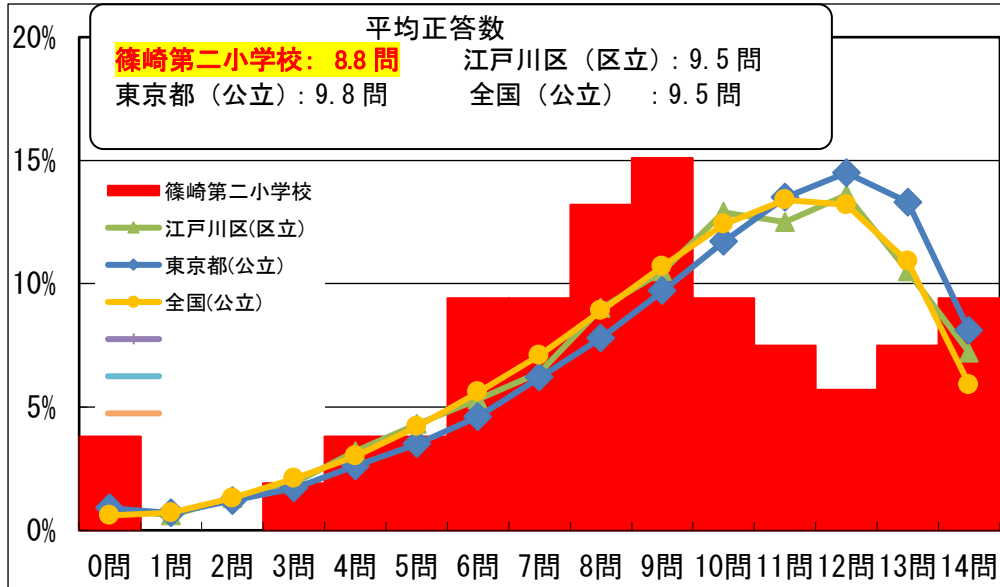


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 篠崎第二小学校

正答数分布



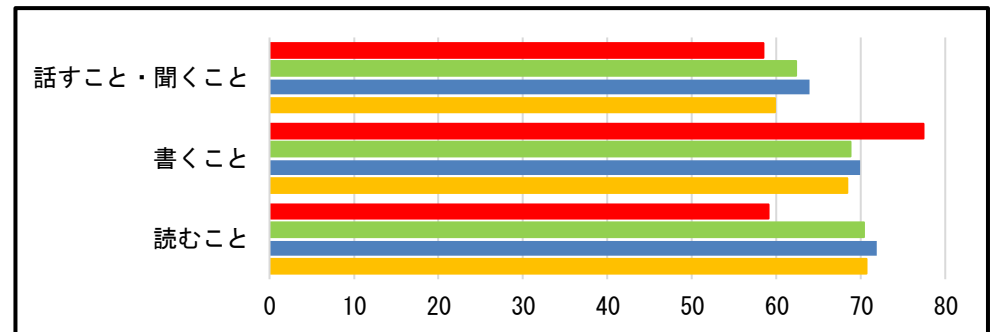
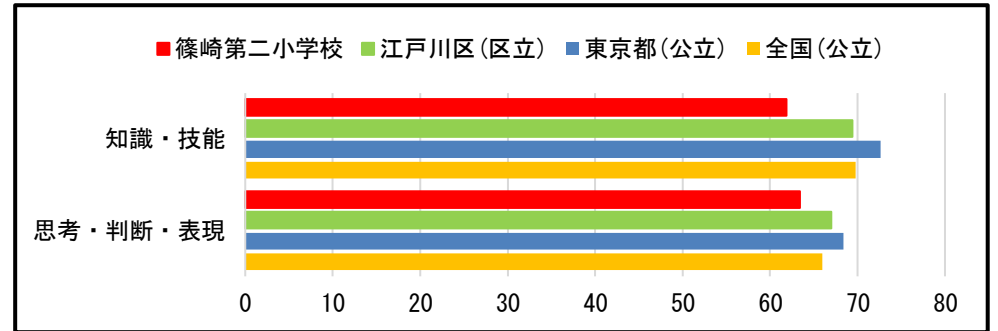
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14 問	B層 10~11 問	C層 8~9 問	D層 0~7 問
篠崎第二小学校	22.6	16.9	28.3	32.1
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けたときのそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

篠崎第二小学校	63%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	-7ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果】

- 全体の平均正答率、東京都の平均を7ポイント以上下回っている。
- 東京都を基準としたA、B層の割合が、共に下回っており、国語の学力の定着が不十分であると言える。

【授業改善に向けて】

- 昨年までの校内研究のテーマである、「篠二話し合いスタンダード」を定め、各学年における話し合いの目標を示し、児童一人一人の話し合いの力を伸ばし、自分の考えをよりよいものにできるようにする。
- 国語の学習だけに限らず、どの教科においても、学習感想やまとめを記入させて、自分の考えを文章で表す力をつける。
- 読書料を計画的に行い、様々な図書に触れ合うことで、読んで、考えて、表現することに慣れさせる。
- 江戸川区国語科スタンダードに基づく授業を行う。
- 児童が主体的な学習にのぞめるように授業改善を行っている。